

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 33 号

発行日
2024. 8. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○多少悔しくもあるが、次代に託すものがあればよい!!

これまた、突然ではあるが、ある時代を生きる(た)者として、たとえ不本意な人生だ(った)としても、そこに、自らの「生の証し」というものを残すことが出来る(た)ならば、それはそれで、幸せなことだと言える!!すなわち、例えば、私(達)は、様々な立場・役割を演じながら、自分なりに精一杯生きていく(きた)わけであるが(親、そして夫としても?否、こちらは?)、そこには、自らの生の意味(意義)があるはずである!否、それがなければ、甚だ悔しいものもなる(たとえ自己満足、否、負け惜しみであったとしても?)!

では、そんな中で、教育関係者(大学教授)としては、どんな「証し」が可能なのであろうか?もちろん、自らの存在と関係を快く受け入れてくれて、そこからそれぞれの人生(仕事)に立ち向かっていく教子達?が、一人でも多く出現してくれているなら、それが、最高の?「証し」ではある!しかし、実際は、厳しい(最近、とみにそう思う?)!!であれば、他にはないものか?そう思うと、別の思い(願い)も出て来る!それは、細やかではあるが、次代(以降)に託したものがあらかどうか、それ自体ということになる!!

ただし、その「次代(以降)に託したいもの」は、人によって千差万別であり、その選定や適否は、他の人間にとつては無縁の長物でもある!ちなみに、その私なりのものは、言わずもがなの?「教育(形態)の三層構造的再編」ひとつづりとまらぶくりの循環システムの構築」理論であるが、問題は、それを、誰に、どのように託すかである!!現在、その感触を得ようとしているが、少なくともこのような形で、HP上に書き記しておくことは、その方途の一つなのではある!

○今回も、様々な人生(スポーツ)ドラマが!

既に(6日現在)、パリオリンピックが始まって、かなりの日数が経った!不幸な、あるいは悲惨な状況(戦争等)が、一方で歴然と進行しているにも拘らず、まるで、それらとは無関係に(別世界のこととして)繰り返されていることに、心のどこかに複雑な思い(この場合は申し訳ないという気持ち?)を持ちながら、テレビを見ているのであるが、今回もまた、体操、柔道、フェンシング等々、様々な人生(スポーツ)ドラマを観させてもらっている(もちろん勝ち負けの妙も含めて!)!

その代表は、もちろん?昨日(5日)の男子バレーボールであるが(本当に惜しい試合だった!)、特に思うのは、勝った試合を落とすというところである(計4回のマッチポイントを生かせなかった!)!あんなことが、実際に起こるんだということ、それを現実にさせたイタリアチームの凄さ(土壇場でミスをしなかった!)とりわけそのキヤブテン?には、ほとほと感心した!あの力(実力)も出来ないが?は、一体どこから来るのであろうか?

ここでは、日本チームの運のなさとか、いざと言う時に力を発揮出来ないとか、いろんな指摘もできるが、日本チームは、そのほとんどを克服してはいた!だから、最後は、神のイタズラだとも思う!まだまだ、競技は続くようであるが、いずれにしても、一番期待していた(楽しみにしていた!)、私の観戦種目は、事実上、これで終わった!!4年に一度の開催だけに、あと何回、それを見ることが出来るのか?そんなことを思いながら、この記事を書いてもいる!それにしても、暑い!!

○今年の台風一家(一過?)は?!

何故か、沖縄近海(東太平洋上?)にいる「熱低」が、今回は台風とならない?その理由については、詳しく調べていないので、何とも言えないが、ひよつとしたら、私のところに、別な台風?が近々襲ってくるので、その「熱低」が遠慮してるのかもしれない(笑)!!いずれにしても、奇妙な現象ではある!

それはともかく、もう既に(9日)、その一波?は到達している!宮崎に住む長女とその三男(小4)であるが、例年のこととは言え、あちこちに連れていくのは大変である(空港への迎え・送りを含めて!)!とは言え、残念ながら、これまで恒例となっていた釣りに、暑さと、私の体力(気力?)のせいで行かないことになった!誠に申し訳ないことである!

だが、これもまた、歳月の流れの中では、致し方ないであろう(孫達は楽しみにしていたらしいが?)!私にも、幼い頃の思い出(母方の祖母宅への訪問、そして従妹たちとの再会)が沢山あるが、いつしかそうしたのも徐々に途絶え、今では、自らの家族の中だけの話となっている!しかも、それも、それぞれの生活状況(拠息)の分岐によって、かなりの変容を余儀なくされている!まあ、それが人の世(家族)の現実であり、ある時に共有されていた家族あるいは親戚関係の宿命なのでもある!

その後、本日(11日)、その第二波が到達する!まだまだ、こうした帰省光景(再会)は続くのかもしれないが、迎える老夫婦?には、喜び以上に、生活リズムの混乱(心身の錯乱?)が待ち構えている!とにかく、長女一家(5人)のスケジュールは、イベント?満載なのである!!三女の帰省もあるが、まさしく、台風一家(一過?)となること間違いのないのである!

ちなみに、本物の台風は、幾つか東北、関東地方に上陸、接近し、かなりの被害をもたらしている!何とも不思議な今夏であるが、ひよつとしたら、これが、通常の光景となっていく(そして秋口には、想像を絶するような台風が、ここ沖縄に襲来する?)!!追伸。かの台風一家(一過?)は、昨日(14日)午後、慌ただしく帰っていった!毎度のことであるが、寂しさは感じるが、我が日常への回帰が、嬉しくもある私でもある? (井上)

○高校野球、はたまたプロ野球はどこへ行った？

今日から(7日)、あの高校野球(夏の甲子園大会)が始まった！今回は、試合開始時間を変則的に設定しているという(一部ではあるが)。猛暑対策による措置とは言え、元高校球児(この場合は井上)としては、何とも複雑な気持ちではある！「夏(の大会)は暑いのだ！でも、それを乗り越えていくチームが強いのだ！だから、尊いのだ？」本当に、身をもって、そう思ってきた私(この場合も井上)であるが、とにかく、時代は変わったのである！実を言おうと、長髪の高校球児も、それなりに違和感がある私(この場合も井上)でもある？

そう言えば、今年の「春のセンバツ」から、新基準のバット(低反発バット)が導入されているらしく(今回、初めて知った！)、ここまでの試合でのホームラン数が著しく少ない！打球による負傷事故防止(特に投手)、投手の負担軽減によるケガ防止(打高投低の是正)が導入の目的らしいが、成果としてはどうか(アメリカの方が勝っている？)。「安全・安心」が、今、すべての領域での優先事項でもあるので、それはそれで納得できるが、試合の醍醐味が無くなるとも言え、誠に残念ではあるが、いずれにしても、自分(ここでは堂本?)はもう、高校

野球(の結果)のことにはあまり興味はなく、一方で繰り広げられているプロ野球の勝敗や順位も、ほとんど気にならない状態になっているわけであるので(ただし、大リーグの大谷翔平選手のこと、何故か注目している！)、世の移り変わり(スポーツの世界ではルール変更?)は、仕方がないものとも思える(否、その改変自体が、より良いものであれば、積極的に評価していかねばいけない！)！

ただし、昔の方が良かった(そこにあった良ささえも、今は打ち消されている?)！そんなことも思う昨今である(ことは、やはり否めない?)！これもまた、幾歳月を経た高齢者の愚痴(自己満足的美化?)なのかもしれないが、こと野球に関しては、とんだ薄情者ということではある？！

○RMO?だが、それは、本当は昔からある?!

毎回(多分?20年以上も前から?)、定期的に資料を送ってもらっている、兵庫県のKさんから、この度(も!)、貴重な情報を頂いた。それは、RMOという考え方(地域運営組織 Region management organization)に関するものであった！ちなみに、Kさんには、以前二度ほど、沖縄に来てもらったことがあるが、私を知る「民間活動者」で、彼ほど頑張っている人は、他にいない(と思っている！)もともと眼鏡屋さんであるが、その地域活動の実績は、ほとんど奇跡と呼ぶに相応しい人である(私より30年上?)!!

ただ、彼のことを書き出すと、とてもじゃないが、このコーナーでは収まり切れないので、ここでは、そのことは止めておくが、この度送られてきた資料に見られる「RMO」という考え方は、まさに、Kさんが、長年地元(現多可町)で取り組まれてきた活動そのものであり、また、その考え方は、私が唱えてきた「教育協働」というものと軌を一にするものである!!だから、これについては、別途「教育協働への道」で論じたいということでもある!!

＜短歌に託して、オリンピックに、盛夏を添える?!!＞
・次代に託すもの 細やかなりしも
あつて欲しい そは己が生きた証し故!

・オリンピック 虚飾ではあるが
そこには それを超えた ドラマあり!

・「熱低」が 台風にならない?
それは何故? そこには別な台風迫る故?

・高校野球 そしてプロ野球も!
残念ながら 気にならず? 薄情者?

・昔からある RMAの形?
社会教育 行政は それがウリであったはず!

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕 ③＞

○改めて、古代九州の全体像を探る―その4―
しかるに、その高良大社の元宮という「大善寺玉垂宮」というものも併せて視野に入れておく必要がある!何故なら、その元宮ということもさることながら、こちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潴庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊社領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣とのおとと、高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

ちなみに、この宮は長い間、寺院と神社が一体的に祀られた典型的な神仏習合の神社であったが、明治二年(一八六九年)の廃仏毀釈により、寺の方は廃され、玉垂宮のみが残り、現在に至っている。しかし、往時の大善寺の遺構である鐘楼をはじめ、阿弥陀堂(鬼堂)や旧庫裡が現存し、神仏習合時代の面影を色濃く残している。神宮寺の高法寺(弘仁五年(八一四年)大善寺と改称)は、天武天皇期の白鳳元年(六七二)法相宗の僧安泰和尚によつて開基されたとある(また、そこは、「天皇屋敷」とも呼ばれていたという)。

ただし、いずれにしても、こちらの宮の創建についても、景行天皇の皇子国乳別(こむけ)皇子を始祖とする「水沼君」が当地を治め、その祖神を祀ったのが、その前身と考えられているが、前述の三神のうち、藤大臣(玉垂命?)は、神功皇后の三韓出兵に大功があり、『吉山旧記』(往時の社家の記録)によれば、藤大臣は仁徳天皇五五年(六九九年)高村(大善寺の古名)に御宮を造営し、筑紫の政事を行ったが、仁徳天皇七八年(三九〇年)にこの地に没し祀られ、高良玉垂宮と諡(なり)されたという。そこに、まさに「武内宿禰」の存在が絡まってくるのであり、そこには、かなりの謎が横たわっているのである!(つづく) (堂本)

＜編集後記＞今日(15日)は、79回目の終戦記念日である!我々は、様々なことに出会い、その喜怒哀楽と共に、自らの生を送っているわけであるが、振り返りの節目としては、この日は大切な日である(とは言ってもない!) (井上/堂本)